

概要

- ・平成22年9月30日より、順次開始した共同輸配送実証運行は、(株)ロジスティクス・ネットワークにより、1拠点で、18店舗8台削減、(株)ワールドサプライにより、2拠点で、16店舗9台の削減となりました。
- ・(株)ロジスティクス・ネットワークでは、惣菜、お弁当、焼き菓子、生菓子等の取扱い、(株)ワールドサプライでは、ワイン、和菓子、鮮魚等の取扱いを行いました。
- ・取扱量は、月ごとに変動があるものの、一定量の貨物を確保しています。

(株)ワールドサプライ築地市場共配センターでは、一定の貨物量で一定日の配送となる顧客の増加はみられない物の、単発や少量の配送については、顧客が常に増減している状況にあります。

環境効果(推計)

- ・3拠点において、参加店舗34店舗、削減車両台数17台により、

$$CO_2 \text{削減量(共同輸配送実施効果)} \\ 68.93 \text{ t / 年 (事業前)} - 26.86 \text{ t / 年 (事業後)} = 42.07 \text{ t / 年}$$

$$CO_2 \text{削減率(共同輸配送実施効果)} \\ (1 - 26.86 \text{ t / 年 (事業後)} / 68.93 \text{ t / 年 (事業前)}) \times 100 = 61.0 \%$$

の効果がみられました。



3拠点併せて、
約3,000本のスギの植林と同等の効果!

杉の木が1年で平均してCO2約14kgを吸収するものとして、計算しています。

大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会 会員一覧(団体名)

会長：小早川 悟(日本大学理工学部教授)
 会員：日本大学、東京海洋大学、専修大学、
 一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、神田駅西口商店街振興組合、
 秋葉原タウンマネジメント(株)、(株)ロジスティクス・ネットワーク、
 (株)ワールドサプライ、高井戸運送(株)、国土交通省、東京都、千代田区、警視庁(順不同)
 事務局：(株)エクス都市研究所

2014年9月現在

発行 大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会
 〒171-0033 東京都豊島区高田二丁目17番22号 目白中野ビル6階
 株式会社 エクス都市研究所内(担当：坪内・折原)
 電話：03-5956-7507 FAX：03-5956-7523
 HP：http://green.cool-biz.net/

2014.09

大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会

大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会の概要

1. 目的

大手町・丸の内・有楽町地区(以下、大丸有地区)と神田地区、秋葉原地区等の交通環境の改善、地球温暖化対策及び都市活動を支える物流事業の経済性の向上等に資する広域共同集配送事業ならびにエリア集配事業を軸とする都市内物流対策に総合的に取り組むため、大丸有・神田地区等低温貨物共同輸配送事業の実施に係る関係者の連絡調整、さらなる発展に向けた事業等の企画・発案・検証・調整を行うため、本協議会を設置する。

2. 事業

1 大丸有・神田地区等低温貨物共同輸配送事業の実施に関する事。

- (1) 低温貨物共同輸配送事業に係る具体的な事業計画の策定
- (2) 低温貨物共同輸配送事業の実施
- (3) 低温貨物共同輸配送事業実施後の進行管理
- (4) 取組みに関する関係者への周知

2 大丸有・神田地区等におけるエリア集配事業の実施に関する事。

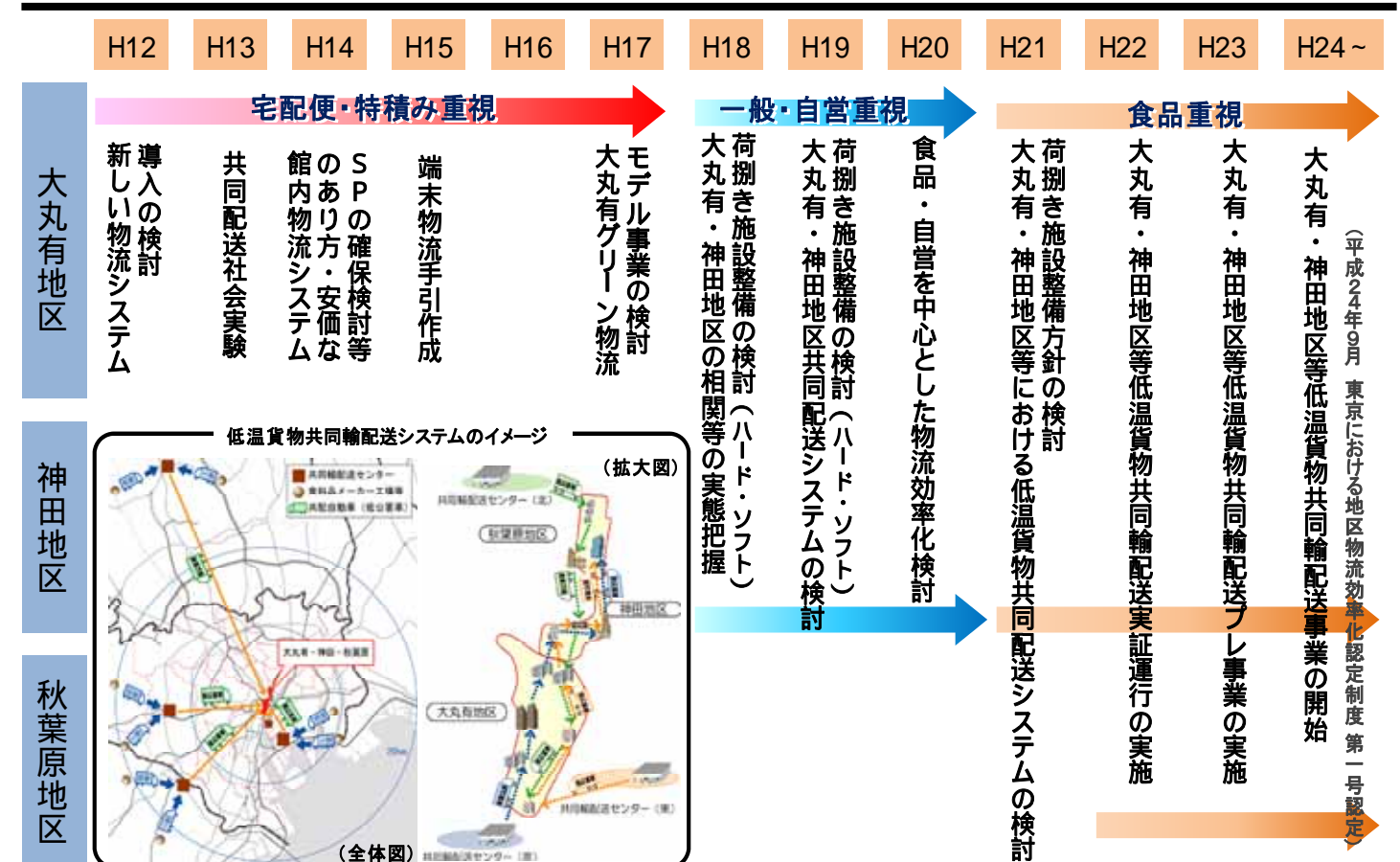
3 上記に掲げるもののほか、当協議会の目的を達成するために必要なこと。

3. 設立

平成21年8月26日設置

平成20年8月28日、当協議会前駆の大丸有・神田地区グリーン物流促進協議会を設置

大丸有・神田地区等における物流効率化の検討経緯



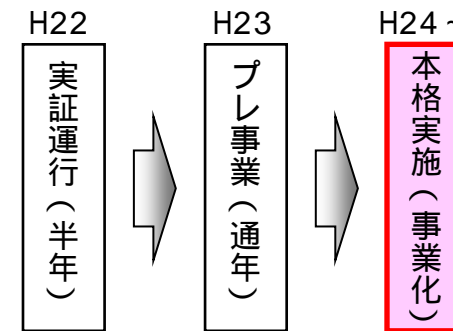
大丸有・神田地区等低温貨物共同輸配送事業の概要



1. システム概要

- 共同輸配送受付センターを対象となる大丸有・神田地区等の東西南北に5箇所配置し、各センターから、既存の配送ルート・配送車両を活用し、対象地域へ低温貨物を中心とした「食品」の配送を行います。（回収・集荷等については、共同輸配送事業者と話合いの上、決めていただきます。）
- 当システムで取扱うユニットロードはカゴ車（ロールボックスパレット）及び個別単位です。
- 取扱手数料は、ロールボックスパレット1台につき2,100円を目安とします。（具体的な料金については、共同輸配送事業者と話合いの上、決めていただきます。）
- 既存の配送ルート・配送車両を活用しておりますので、開店前配送が可能ではありますが、具体的な時間指定等については、共同輸配送事業者と話合いの上、決めていただきます。

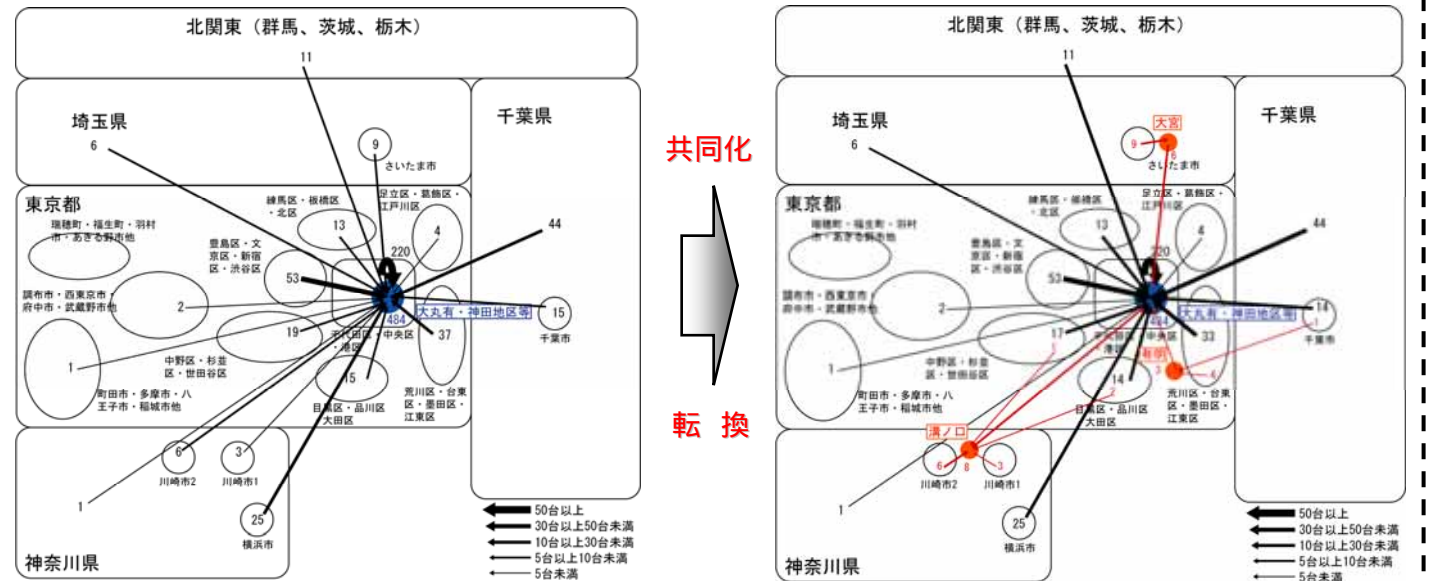
2. 検証経緯



実証運行（平成22年度）
平成22年9月30日～平成23年3月31日
3拠点で、5事業者参加、5台削減
プレ事業（平成23年度）
平成23年4月1日～平成24年3月31日
3拠点で、15事業者参加、13台削減（平成22年からの累計）
本格実施（事業化）
平成24年4月～
今後時期をみて、事業計画等の見直しを行っていきます。

【参考：大丸有・神田地区等における貨物車両の状況】

当協議会での検討結果や、既存資料（第4回東京都市圏物資流動調査データ）等を用いて、大丸有・神田地区等における貨物車両台数を推計すると、**概ね2,500台/日（大手宅配便事業者を除く）発生**していることが分かりました。その内、低温貨物を扱う貨物車両台数は、**概ね500台/日**となっています。



出典：大丸有・神田地区等物流連携効率化推進計画策定調査事業実績報告書 平成22年3月